観たい映画を自分達の手で !!

SCC 仙台シネマ倶楽部NEWS

1986.10.18 No.6
SCC機関誌部発行
仙台市五橋 1-5-13
平和友好会館3F
℡(222)9695

'86.10月～'87.3月 上映作品ラインアップ

"映画はあなたの人生を ちょっぴり 素敵に 彩(いろど)ります。"

☆ 10/18(土)「愛の奴隷」ソヴェト　監督ニキータ＝ミハルコフ　1976年製作

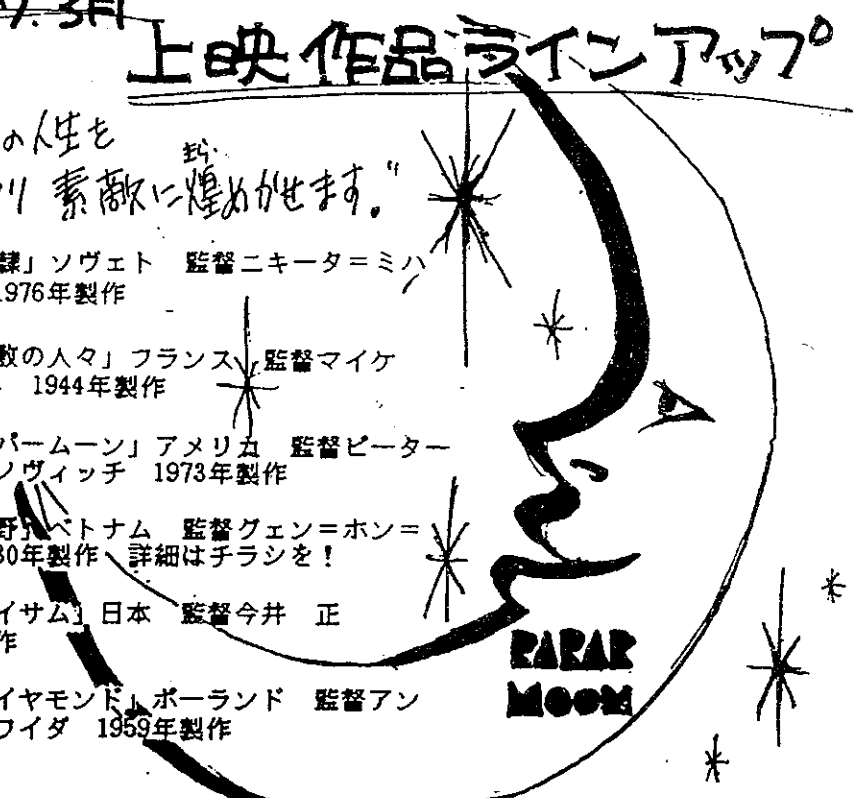
☆ 11/15(土)「天井桟敷の人々」フランス　監督マイケル＝カルネ　1944年製作

☆ 12/13(土)　「ペーパームーン」アメリカ　監督ピーター＝ボグダノヴィッチ　1973年製作

☆ 1 /10(土)「無人の野」ベトナム　監督グェン＝ホン＝セン　1980年製作　詳細はチラシを！

☆ 2 /21(土)「キクとイサム」日本　監督今井　正　1959年製作

☆ 3 /14(土)「灰とダイヤモンド」ポーランド　監督アンジェイ＝ワイダ　1959年製作



―― ※アンケートの結果と、作品決定の経過、お詫び、それから今後の展望も。※ ――

前期の６月、７月と行いましたアンケートですが、全部でおよそ１４０名の方から回答をいただきました。　票の多かったものだけ順に挙げてみますと、特別例回作品では、ガープの世界" 28票、"鉄の男" 27票、"旅芸人の記録" 25票、"81/2" 22票、"気違いピエロ"20票、例会作品では、"風と共に去りぬ" 29票、"天井桟敷の人々" 26票、"ペーパームーン" 25票、"灰とダイヤモンド"・"いちご白書"24票、"時計じかけのオレンジ"・"アラビアのロレンス"・"ブリキの太鼓" 23票、という結果でした。

運営委員会で、この結果をもとに、価格や、映画館とのかねあい、今の私たちの力量などを考慮に入れて上記のようなラインアップを考えました。必ずしも全会員の要望通りとはなっておりませんが、できる限り希望を取入れ、できる限り面白く、バランスの良いラインアップを今後とも、追及していきたいと思います。　なお、１１月例会作品は、頭初"ニッポン国古屋敷村"ということで、準備・告知してきましたが、配給上の都合で急きょ"天井桟敷の人々"に変更になりました。心からお詫び申しあげます。

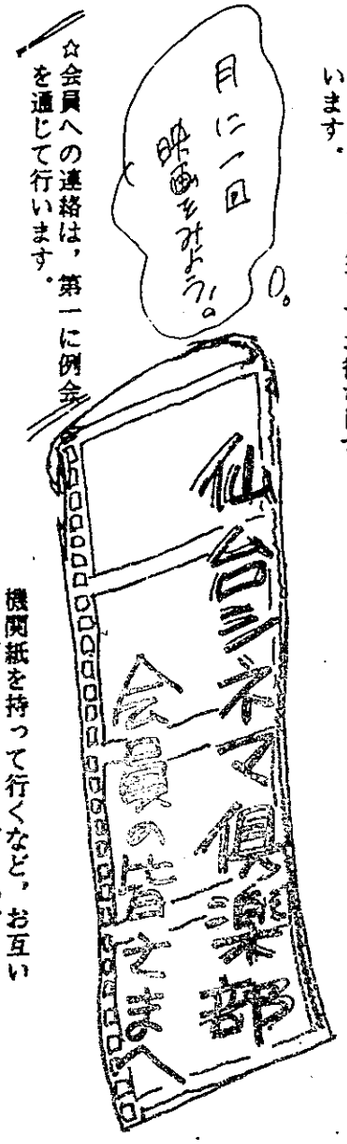
―― 仙台シネマ倶楽部運営委員会 ――

☆仙台シネマ倶楽部は，全て会員の手で運営されています

仙台シネマ倶楽部は，「観たい映画のくるのをただじっと待っていないで，出来ることから自分達でやって行こう」という人たちの集まりですから，会員募集から映写機まわしまで，全部の仕事を会員がやっています．ひとりひとりのいろんなアイデアと協力とが，会を動かしている力の全てです．勿論，上映する作品も，会員が話し合って決めます．会員は誰一人としてただのお客さんではありません．

会員の中から，特に一期全体の見通しをもって全体的な仕事をやってもらえる人を募って，運営委員としています．運営委員はみんな，仕事を持ちながら映画にも情熱を傾けている，すてきな人たちです．

それぞれの例会の会場係は，輪番制で当番サークルがやっています．もし，「私はそういうのはちょっと…」なんて言ってみんなが来なければ，実際に上映会は出来なくなってしまいます．サークルから誰か一人，自分が観る回の1時間～30分前に来ればOKですから，必ず来てください．運営委員が，にっこり笑ってお待ちしています．



☆会員への連絡は，第一に例会を通じて行います

日常的に活動している運営委員会から会員への連絡は，例会でお渡しする機関紙や，上映5分前のお知らせでおこないます．例会の前日には予めサークルで連絡を取りあって，来られない人がいるときには，来られる人がそのぶんの機関紙を持って行くなど，お互いにカバーしあってください．

会費はなるべく多くを作品に使いたいので，通信費は極力抑えるつもりです．ご協力ください．

☆仙台シネマ倶楽部の経費は，全て会員の会費でまかなわれています

仙台シネマ倶楽部の運営に最低かかる費用には，上映会の会場費，フィルム代，映写機のレンタル料，会員証や機関紙などの印刷費がありますが，ほかにも通信費や交通費などがかかります．例会は，会場費と映写機で1万円強，フィルムで3～7万円かかり，特別例会は，会場費と映写機で6万円強，フィルムで最低20万円，ポスター　万円，チラシ等宣伝費で　万円，35ミリだとさらに技師料で10万円かかります．

これらの費用は，特別例会にチケットやパンフレットの売上があてる以外は全て，会費でまかなっています．出来るかぎりフィルムに今のところこれでぎりぎりの状態です．例会を二日ずつにするとか，上映本数を増やすとか，大きいスクリーンにするとか，改善したい点はたくさんありますが，そのためには会員をもっと増やすことが必要です．まわりにいる映画ファンを，仙台シネマ倶楽部に誘ってください．お友達を映画ファンにしてしまうのも，GOOD．

☆特別例会は，会員みんなの手で成功させるビッグ・エベントです．

特別例会は，仙台で公開予定のない作品をはじめとした貸出用になっていない作品を，配給会社と契約して上映するもので，上にも書いたようにたくさんのお金がかかります．

そこで仙台シネマ倶楽部は，会員だけでは負担しきれないこのような作品をひろく会員以外の人にも観に来てもらうことによって上映可能にしています．不特定多数の人に向けての宣伝はもちろん大切ですが，会員が一人でも二人でも友達を誘って来ることで，安定した運営をすることができます．経費より多くの収入があれば，次の例会や特別例会に，もっとお金をかけることができます．特別例会をきっかけに友達にも会員になってもらえれば，仙台シネマ倶楽部そのものの運営も，より安定してきます．

というわけで，特別例会は会員みんなで，チケットを勧めたり，無理なくポスターを貼ったり，無理なくせることを受けもって成功させることが大切なのです．

ところで，まだサークルを作っていないかたへ――。

これまで書いてきましたように，仙台シネマ倶楽部は，サークル単位で運営や連絡を行っています．まだサークルを作っていない一人ぼっちのかた，一日も早くお友達とサークルを作って，ご一緒に例会にいらっしゃいますようお待ちしています．

◇例会のためのご注意◇

①受け付けでは，入場券（会員証と一緒にお渡しした緑色の券）をカットします．入場券には必ずサークルナンバーとお名前を予め記入しておいてください．

②機関紙や特別例会のチケットなど，必要な物をお渡しします．同じサークルの人で来られない人がいる時は，その人の分も持ち帰って本人に渡して下さい．

③上映開始5分前には，運営委員会からお知らせをします．また，受け付けがこみ合う場合もありますから，上映開始時刻10分前には会場にお着くようにしてください．

④受け付けの当番になっているサークルは，上映開始時刻の30分～1時間前に会場に来てください．入場券のカットや，入会受け付けなどをやっていただきます（会場責任は，運営委員のほうでもちます）．

私と映画

天井桟敷サークル　一條祐子

シネマ倶楽部の運営委員で一番映画を見ていない人間は私ではないだろうか．「○○監督の△△はどうだ．」とか「◇◇の演技は☆☆と比べどうである．」と言えるほど，映画を知らないし，「きちがい」というほど映画を好きなわけではないのである．

初めて見た映画は「サイボーグ009」「怪獣戦争」で三つか四つの時．次が小学4年生の「東海道四谷怪談」．その次は「エクソシスト」．まともに観るようになったのは十八才，仙台の名画座に通うようになってからで，「スター誕生」を観た後，泣きながら一番町を歩いたこともあった．一緒にみた友人は，私からはなれるようにして歩いていたけれど．

「風と共に去りぬ」のような恋愛映画や，「アモク」「Uボート」のような真剣な映画も好きだけど，映画の力はアニメやSFXを含むファンタジー映画で発揮されると思う．小学校5年生までいじめられっ子で読書ばかりしていたため，幸か不幸か想像力の旺盛な人間になった．「銀河鉄道999」では，天空に延びる線路を舞い上がるあの列車と共に私の体は宙に浮き，「ネバーエンディングストーリー」では，ファンタージェンに行けない，妖精の姿やコロボックルを探せない自分に気付かされた．

誕生日の来ることに自分が現実的，功利的になっていっているような気がして，そんな自分を洗い直すためにも映画は必要．いつまでも，子供とともに空想の世界で遊べる人でいたいと思う．

●11月例会　15(土)
① 13:00～ ② 17:30～

天井桟敷の人々

天井桟敷に人生の夢を求めて
集まった人々の愛と憎しみ…

フランス映画史上空前絶後の超大作

マルセル＝カルネ監督の代表作であるばかりでなく、フランス映画史上でも一際大きく輝く重要作の一つである。第一部「犯罪大通り」第二部「白い男」に分れる三時間六分の長大作で、ドイツ占領下四三年に撮影を開始し、四四年に完成、発表された。

一八四〇年代のパリを舞台に、見世物小屋が並ぶブールヴァール・デュ・タンプルの風俗描写に始まり、そこに住む様々な人物を描き出して、そのからみ合いの上に壮大な人間ドラマを繰りひろげていく。多情な女ガランス（アルレッティ）を恋する男（ジャン・ルイ・バロー）とさらに彼を愛する女（マリア・カザレス）の物語だが、アルレッティのお色気と鉄火女ぶり、ピエール・ブラッスールの野心家の風貌、マルセル・エランの反逆児の風格など名優ぞろいの心ゆくまでの大芝居がすぐれた演出と相まって妖しいまでに語られていくが、中でも圧巻はバローのパントマイム。歓楽つきて哀愁を知る、といった世話物映画だが、作品の背景にある、戦争には負けても、文化は決して滅びないとのメッセージを忘れてはならない。

合同出版　「映画の事典」より

飢餓海峡のアンケートより

○久々に感動した映画だった。ラストシーンは、いつまでも心に残るようだ。作品が訴えかける内容やら何やらで、疲れた、気持ちの良い疲れ、映画の良さを再確認できた。

○後半、とても引き込まれた。本当にグイグイ。三国連太郎の演技を、初めて良いと思った。

○宿命のようなものを感じ、育つ環境の大切さを感じました。
「うそ」は必ず見抜かれる、真実を常に捜しながら生きたいと思いました。

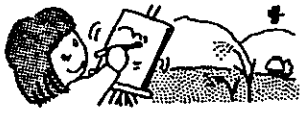
○三国連太郎の演技が光る。わき役の伴淳。高倉健が主役の存在感を一層強くしている。

あと、映写機の回る音が気になるという声が、二、三聞かれましたが、これは小さい上映会の宿命の様なもので、当分はこらえて頂くしかないかなと思っています。市民会館の視聴覚室は、映写室が有るのですが、あそこも席が平らなので、それよりは、多少音がうるさくても良い席のほうがいいかと思い、研修室にした次第です。

例会発行
当番表

11月 No161～175
12月 No176～190
(特)1月 No161～190
2月 No191～205
3月 No.206～220
(特)4月 No.191～220

ちょっと
お知らせ
コーナー

86年度後期
仙台シネマ倶楽部
総会
とき 10月28日(火) 18:30～
ところ 戦災復興和室

☆おしまいに―。☆
根性なしの私は
もうワープロを叩く気力が
おきませんでした。
（あー、眠いぞー。）
どうもすみませんでした。(か)